

LPガスCP速報(2026年6月積)

1. 6月積みサウジアラムコLPガスCP

プロパン **760** ドル (前月比+10 ドル)

ブタン **820** ドル (前月比+20 ドル)

① LPガスパット市況等

米、イラン戦争によりホルムズ海峡の事実上封鎖が続いており、中東産は紅海ヤンブー積みに限定。中東産LPガス依存度の高いインド、東南アジア諸国の需給がタイト化、特にブタンの逼迫は深刻で、価格高騰により需要は減退。インドは米国産にシフト、米国産の供給は増加し輸出も急増している。停戦合意以降、一時市況は下落する場面もあったが、戦争終結、ホルムズ海峡再開に向けた協議は一進一退、正常化には時間を要し、需給逼迫の長期化が懸念される。

米国市場をみると、需要は堅調、輸出はアジア勢の中東からのシフトもあり、過去最高を更新している(グラフ③参照)。全米プロパン在庫は、供給増により超高水準で5年平均レンジを上抜けている(グラフ②参照)。モンベルビュープロパンスポット価格は原油市況とアジア市場の高騰に支えられ月間平均では前月比30 ドル 続伸の430 ドル /トッところ。アジアのブタン需要は根強く、米国産ブタンの輸出も過去最高を記録している。

フレート市況は高騰が続いている。米・イラン戦争でホルムズ海峡が封鎖され、中東積みは紅海のヤンブー積みに限定、中東ポジションの船舶は米国に回航、米国市況の上昇で連れ高となっている。インド等アジア勢が米国産を求めて殺到、パナマ運河の通航のオークションが高騰、喜望峯廻りも増加し、タイトな状況、フレート市況を押し上げている。バンカーオイルの高騰に運航距離、日数の増加、米国へ極東市況は一時350 ドル の記録的な高値に達した。

ナフサ市況(極東着)は大幅反落、月間平均は前月比123 ドル 下落の947 ドル /トッところ、下旬には1,000 ドル を割り込み、米・イランの停戦覚書報道を受けた29日には774 ドル まで下げた。ただ、ホルムズ海峡の事実上封鎖が続く、中東産ナフサの輸出が途絶、ナフサ代替のブタン需要は増加している。

バンカーオイルをみると、シンガポールIFO380はほぼ横ばい、月間平均で前月比3 ドル 上昇の683 ドル どころ、LSMGO(低硫黄マリンガスオイル)は大幅続落、前月比315 ドル 急落の1,197 ドル どころ。マリンガスオイルは停戦以降、1,200 ドル を挟んだ展開、アジアの石油製品の需給逼迫は続いているが、戦争終結、ホルムズ海峡再開期待で第4週には1,100 ドル を割り込んだ。

6月CPは前年同月比プロパン160 ドル 、同ブタン250 ドル の上昇。原油(アラビアン・ライト)熱量等価換算(下記参照)では、前月に比べプロパン9、ブタン8ポイントそれぞれ下落、前年同月比ではプロパン37ポイント、ブタン26ポイントそれぞれ低い。

	第1週	第2週	第3週	第4週	平均
フレート(中東ー日本)	210	205	215		
CP先物指標:P	705	740	760		
CP先物指標:B	750	790	820		

② 原油市況等

米・イラン戦争は、停戦合意後、戦争終結、ホルムズ海峡再開に向けた協議が続いているが、決定打はなく一進一退、WTI、ブレント原油ともに小幅上昇に止まった。一方、サウジ原油のアジア向け5月積み価格は、ドバイ・オマーン平均に付加される調整金が大幅に引き上げられライト原油は19.5 ドル (前月比+17 ドル) と記録的な高値となった。28日には米イランの60日停戦延長の暫定合意について覚書草案がまとめられたとの報道によりWTIは90 ドル を割り込んだが、トランプは承認を先送り、イランも強硬姿勢を崩しておらず、先行きは不透明。濃縮ウランの取り扱い、ホルムズ海峡管理問題など双方の要求の隔たりは大きく、イスラエルのレバノン攻撃も激化し、予断を許さない状況が続いている。

○5月積みアラビアン・ライト(5月1~28日までの想定)は121.50 ドル (前月比+13.78 ドル)

熱量等価AL100% プロパン 996.17 ドル /トッ ブタン 982.51 ドル /トッ

AL比 プロパン 76.29% ブタン 83.46%

*上記ALはE I N推計、確定値は後日Webサイトでご確認ください。

2. 2026年6月LPガス仕切（CP・MBコスト変動分）への影響

適用為替	T T S	P 円建 C F R	B 円建 C F R	P 前月比	B 前月比
5 月月間	159.38	131,200	148,600	+3,000	+1,900

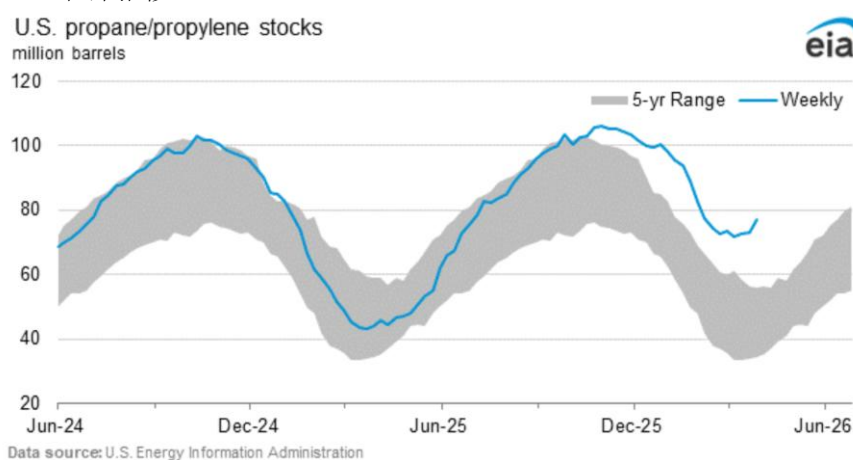
* T T S 平均等について、上記は5月1～29日までのT T S 平均。C P は前月・当月50%案分。プロパンのMB合成比率はC P 70%、MB30%で算定。C F R コストは中東・北米フレートを含むC F R コストを表示。C F R コストには北米の基地経費等も含まれ、各社で異なる。

なお、上記MBは5月28日までの価格を基にE I Nで試算（433ドル/トン）したもので、メーカー各社の最終確定値とは異なる。また、各社の仕切はフレート分、パンカーサーチャージ等の改定やフォーミュラ見直しもなされるため、仕切等の詳細はW e bサイトを参照。

① 米国プロパンスポット価格推移



② 全米プロパン在庫推移



③ 米国プロパン輸出量推移

